

## 地域の子育て資源に関する研究（２）

### －愛育班の自主性評価尺度の開発－

母子保健研究部 齊藤 進  
客員研究員 小山 修  
山田 芳子（母子愛育会愛育推進部）

#### 要 約

地域組織である愛育班の支援に当たって使用するアセスメントツールとして自主性評価尺度を開発することを目的にした。愛育班の支援に当たる保健師と共に尺度項目を検討して、調査票を作成した。愛育班の支援担当保健師 165 名を対象に調査を実施し、因子分析を行った。その結果、「プランニング」「積極的活動」「意見表明」「調整管理」「自己評価」の下位尺度で構成された 22 項目を抽出し、自主性評価尺度を作成した。話し合い学習との関連が確認され、アセスメントツールとして使用可能であることが示唆された。

キーワード：地域組織 愛育班 自主性 評価尺度 アセスメント

#### Community Childcare Resources (2)

#### －Developing an instrument to assess the initiative of AIKU-HAN－

Susumu SAITO, Osamu OYAMA, Yoshiko YAMADA

**Abstract :** This study sought to develop an instrument to assess the initiative in order to assess AIKU-HAN (community organizations). An instrument was devised and studied in concert with public health nurses assisting AIKU-HAN, and a questionnaire was created. One hundred and sixty-five public health nurses who are in charge of assisting AIKU-HAN were surveyed. Factor analysis identified 22 items that fell under the categories of “planning,” “active efforts,” “expression of opinions,” “coordination and management,” and “self-critique.” An instrument incorporating these categories was devised. Results revealed that the initiative was associated with learning through discussion and results suggested that the devised instrument can be used in assessment.

**Keywords :** community organizations, AIKU-HAN, instrument to assess initiative, assessment

## I. 目的

地域の子育て資源として、子育てグループや母親（父親）ネットワークなど当事者を中心とする活動、愛育班や母親クラブ、母子保健推進員協議会など地域住民、ボランティアで構成される活動、行政の推進による子育てひろばや児童館での事業などが展開されている。当事者中心の活動に比べ、世代間ギャップが起りやすい地域組織活動も大切な子育て資源と考えられる。

地域組織活動の中で長い歴史を持ち、母子保健領域の活動を中心に展開してきた愛育班活動を活性化することは、今後の子育て支援に有効である。愛育班活動の活性化については、その活動実態と課題等を十分把握し支援にあたる必要がある。そのためのツールとして「地域組織活動のリーダー行動尺度」<sup>1-3)</sup>や「活動成果指標尺度」<sup>4)</sup>を用いたアセスメントを試みた<sup>5)</sup>。しかし、活動課題のひとつとして行政依存から自主的活動への修正があり<sup>6)</sup>、地域組織活動の自主性について評価する尺度が必要であると考えられる。

そこで、地域組織活動のひとつである愛育班において、その自主性を評価する尺度を開発し、愛育班の支援におけるアセスメントツールを作成することを目的とした。

## II. 方法

### 1. 尺度項目の作成

Y県の愛育班の支援を担当する市町村・保健所等の保健師研修会において、グループワークにより、「自主性を評価するポイント」についてディスカッションとKJ法を用いて、43項目の質問を作成した。この項目内容について、自主性を評価する項目としての重要性についてのアンケートを作成し、前記研修会の第2回目（継続）受講者と母子愛育会で実施した「愛育班育成者研修会」受講生（保健師）を対象に予備調査を実施した。重要性の評価は「まったく重要でない」から「非常に重要」の7件法で回答を求め、それぞれを1~7点として集計した。研究者間でワーディングと内容を整理再検討し、予備調査の平均点5点未満の項目（6項目）とあわせて12項目を削除し、また「自主性評価アンケート」（31項目）を作成した。

### 2. 自主性評価尺度調査

調査は、母子愛育会愛育推進部の愛育班関係者研修会等受講者を中心に積極的に愛育班の支援を行っている保健師で、愛育推進部から電話で依頼し、調査協力を承諾したものを対象にした。調査票は、E-mail等で送付し、回収はFAXおよびメール、郵送で回収した。

### 3. 分析方法

尺度の質問項目は、「よく当てはまる」から「まあ当てはまる」、「どちらともいえない」、「あまり当てはまらない」、

「全く当てはまらない」の5件法で、それぞれ5点から1点として集計した。平均点を算出、天井効果（平均+SD>5）およびフロア効果（平均-SD<1）の項目を除外し、因子分析を行った。

因子分析は、主因子法プロマックス回転により、因子負荷量.4以上でかつ重複しない構造の22項目を採用した。累積寄与率は55.24%で、5因子を抽出した。因子名をつけ下位尺度とし、項目数の違いから平均点を下位尺度得点とした。

信頼性の検討は、 $\alpha$ 係数を使用した。妥当性の検討は、尺度調査で尋ねた保健師から見た自主性度（以下、主観的自主性度）データと尺度項目全体の平均点（総合得点）との相関および、主観的自主性度別水準による総合得点について、分散分析により関係を検討した。また、下位尺度ごとの検討は、組織形態、活動年数、分班長会議開催の有無、班員会議開催状況の各水準による得点について分散分析を行い、尺度としての使用可能性を検討した。

統計解析には、SPSS 14.0J for Windows を使用した。

## III. 結果

### 1. 調査対象

調査対象の愛育班は、11県1政令指定都市（秋田県、山形県、福島県、埼玉県、山梨県、兵庫県、島根県、香川県、愛媛県、長崎県、大分県、岡山市）の165組織で、「単位組織」（88.5%）がほとんどを占め、活動年数は「20年以上」（83.6%）で、「分班長会議を定期的に開催」（76.4%）し、班員会議の開催状況は、「開催している」（40.6%）が高く、以下「ほとんど開催していない」（26.7%）、「一部で開催している」（18.8%）の順であった。保健師による担当愛育班の愛育班自主性度については、平均 6.43（SD 1.98）であった（表1）。

### 2. 因子分析

天井効果およびフロア効果が見られた1項目を削除し、最初の因子分析を行い因子数を決定、主因子法プロマックス回転で因子分解を行った。因子寄与率.4以上を基準に、.4以下および複数因子に寄与している項目を削除して、最終的に5因子22項目が抽出された。因子分析結果と因子間相関を表2に示した。累積寄与率は55.24%であった。

第1因子は、「計画が決められる」、「計画を立て」、「次の動き」などから「プランニング」と命名した。第2因子は、「やる気」、「前向き」、「やりたいことがある」などから「積極的活動」とし、第3因子は、「意見が言える」ことから「意見表明」とした。第4因子は、「連絡調整」、「予算管理」から「調整管理」とし、第5因子は「問題を言える」、「課題を出す」から「自己評価」と命名した。

自主性評価尺度については、「プランニング」（6項目）と「積極的活動」（8項目）、「意見表明」（3項目）、「調整

管理」(3項目)、「自己評価」(2項目)の5つの下位尺度で構成され、22項目の質問で構成することにした。

### 3. 下位尺度得点

全体および下位尺度の得点については、項目数が異なることから、平均点を算出し、それぞれの得点とした。「プランニング」は3.21 (SD .70)、「積極的活動」は3.75 (SD .59)、「意見表明」は3.60 (SD .72)、「調整管理」は4.15 (SD .64)、「自己評価」は3.23 (SD .77)で、総合得点は3.59 (SD .54)で、「調整管理」が高く、以下「積極的活動」、「意見表明」、「自己評価」、「プランニング」の順であった(表3、4)。

### 4. 信頼性と妥当性

信頼性(内的整合性)については、 $\alpha$ 係数により検討した。「プランニング」(0.89)と「積極的活動」(0.87)、「意見表明」(0.77)、「自己評価」(0.75)については、0.7を超えたが、「調整管理」(0.61)は若干低くなっていた。また全体では、0.93と良好な値となっていた(表1)。

妥当性については、評価尺度の項目全体の得点(自主性得点)と回答者が調査票で回答した担当愛育班の自主性の程度を使用し、相関係数と自主性の程度を水準とし、自主性得点の平均値を比較した。自主性の程度と評価尺度による自主性得点には有意な正の相関(相関係数 .60  $P > .01$ )が見られた。また自主性の程度による一元配置分散分析の結果、自主性の程度が高い水準で自主性得点が高くなる傾向がみられた( $P > .001$ ) (図1)。

### 5. 組織属性と得点傾向

尺度としての可能性を検討するために、組織状況ごとに、総合得点と各下位尺度得点(平均点)を比較、検討した。組織形態では、「意見表明」( $p < .05$ )においてのみ差が見られ、活動年数では、活動年数が長くなると得点が高くなる傾向が、「自己評価」を除く「総合」得点( $p < .001$ )と「プランニング」( $p < .05$ )、「積極的活動」( $p < .001$ )、「意見表明」( $p < .05$ )、「調整管理」( $p < .001$ )で差が確認された。

分班長会議の開催の有無では、「総合」( $p < .01$ )と「プランニング」( $p < .05$ )、「積極的活動」( $p < .001$ )、「意見表明」( $p < .05$ )、「調整管理」( $p < .01$ )、「自己評価」( $p < .05$ )のすべてにおいて「定期的に開催」している愛育班に高い得点が見られた。また、班員会議の開催では「積極的活動」( $p < .05$ )、「意見表明」( $p < .05$ )、「自己評価」( $p < .05$ )に有意な差が確認された(表5、図2)。

## IV. 考察

### 1. 自主性評価尺度の信頼性と妥当性

信頼性についてのアルファ係数は0.7程度を基準とする<sup>7)</sup>、「調整管理」(0.61)を除き0.7より高くなって

おり、不十分な面もあるが一応信頼性があると思われる。

次に妥当性の内、内容的妥当性については、「専門家による項目内容の判断」<sup>8)</sup>とされており、愛育班支援を担当する保健師による項目作成、重要性評価などの過程を経て作成されている点から問題はないと思われる。また、「基準関連妥当性の程度は、問題としている特性と関連のある外部変数あるいは基準測度と尺度得点を比較する」<sup>9)</sup>という観点から、担当保健師の主観的自主性の程度と尺度得点を比較し、相関係数や自主性の程度別水準での得点変化が同傾向を示している点から、一応大丈夫出ると判断できる。構成概念妥当性については、因子分析により得られたことから因子の妥当性が得られたとし、構成概念妥当性の一部は確認されている(文献8)と考えれば、不完全であるが妥当性も確認できたと思われる。

従って、調査対象の偏りや調査方法の不完全さは見られるが、一応自主性を評価する尺度として使用できる可能性があると考えられる。そこで、愛育班活動の自主性評価チェックリストを作成し、活動との関連性を検討し、愛育班のアセスメントに使用する自主性評価尺度チェックリスト(ベータ版)を作成した。

### 2. 自主性評価尺度の今後の課題

自主性評価尺度の今後の課題は次の3点である。

1. 「自己評価」では、項目が2つしかないため、下位尺度として使用するには不十分とも考えられるので、項目の追加を検討すべきである。

2. 「調整管理」については、 $\alpha$ 係数が低く(.61)ため、下位尺度としての採用について、今後の調査等うい通じて継続しての検討が必要である。

3. 「意見表明」の「自分の地域で出た問題を会議で伝えられる」について、「自己評価」にも若干因子寄与率が高く、両者に跨っている可能性が高い。しかし、「意見表明」からはずした場合は、この下位尺度が2項目となってしまうため、敢えて今回は採用した。内容から、「地域で出た問題」は自己評価に、「会議で伝えられる」が「意見表明」ということで、回答にバイアスを与えている可能性があるため、ワーディングの再検討が必要である。

### 3. 自主性を高める活動

愛育班活動の柱である「話し合い学習」は分班長会議と班員会議である。分班長会議を中心とした話し合い活動が、活動成果を高めることが確認されており<sup>5)</sup>、本調査でも分班長会議定期開催群が、有意に高い自主性評価尺度得点となっていた。従って、愛育班活動の自主性には分班長会議などの話し合いの活動が重要な役割を持っていると考えられる。

## V. 結論

愛育班の自主性を計量化するための自主性評価尺度を

開発した。まだ課題は残っているものの、尺度として使用できる可能性が示唆された。また、愛育班をはじめ他の地域組織においても使用可能であり、活動内容との関連性の検討、尺度の完成度を高めることが課題である。

謝辞：調査にご協力くださった関係者の皆様に感謝します。

文献：

1. 島内憲夫、小山修、斉藤進、小野田薫、市村久美子、「母子保健のための地域組織活動の活性化と強化に関する研究—その3. 地域組織活動の強化法の開発—」、厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究」平成3年度研究報告書（主任研究者 平山宗宏）、1992、pp. 449--486
2. 斉藤進、地域組織活動におけるリーダーシップに関する研究(1)、日本総合愛育研究所紀要 第33集、1997、pp290-293
3. 斉藤進、地域組織活動におけるリーダーシップに関する研究(2)、日本子ども家庭総合研究所紀要 第35集、1999、pp233-238
4. 斉藤進他、地域組織活動の評価法に関する研究(3)、日本子ども家庭総合研究所紀要 第42集、2006、pp127-145
5. 斉藤進他、地域組織活動の活性化に関する一考察—愛育班活動のアセスメントの試み—、日本子ども家庭総合研究所紀要 第43集、2007、pp275-280
6. 斉藤進、「地域組織活動をどう強化・活性化させるか」、生活教育45(8)、2001、pp27--31
7. 菅原健介、第7章 心理尺度の作成過程、堀洋通他編、心理尺度ファイル—人間と社会を測る、垣内出版、1994、pp637--652
8. 吉田富士雄、信頼性と妥当性、吉田富士雄編、心理測定尺度集2、サイエンス社、2001、pp436--453
9. 堤明純、心理社会的要因の測定(2)「心理特性Ⅱ妥当性」、日本公衆衛生雑誌56(5)、2009、pp338--340

表1 対象愛育班の状況

	度数	%		度数	%
合計	165	100	合計	165	100
組織形態			自主性の程度	平均値 6.43(SD1.98)	
1 単位組織	146	88.5	1	1	0.6
2 連合会	19	11.5	2	5	3.0
分班長会議の開催			3	7	4.2
1 定期的に開催	126	76.4	4	17	10.3
2 開催していない	39	23.6	5	24	14.5
組織の活動年数			6	16	9.7
1 5年未満	12	7.3	7	31	18.8
2 5年以上 20年未満	15	9.1	8	39	23.6
5 20年以上	138	83.6	9	16	9.7
班員会議の状況			10	4	2.4
1 開催している	67	40.6	NA	5	3.0
2 一部で開催している	31	18.8			
3 ほとんど開催していない	44	26.7			
4 全くなし	14	8.5			
NA	9	5.5			

表2 因子分析結果

項目(全体 22 項目 $\alpha$ 係数=0.93)	$\alpha$ 係数	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	共通性
1. プランニング(6項目)	0.89						
Q20 自分たちで方向性や計画を決められる	0.84	0.06	-0.14	0.11	-0.09	0.69	
Q21 活動に具体的な提案ができる	0.83	-0.01	0.07	-0.07	-0.02	0.68	
Q26 自分たちの活動を自分たちで評価できる	0.74	-0.11	0.10	0.14	-0.02	0.59	
Q22 計画を立て、課題がわかり、評価して、プランが立てられる	0.60	0.05	0.16	-0.07	0.09	0.60	
Q10 事前に会から案が出てくる	0.56	0.07	-0.10	0.01	0.16	0.45	
Q28 次の動きがみえる	0.52	0.18	-0.09	0.10	0.17	0.61	
2. 積極的活動(8項目)	0.87						
Q11 やる気がある	0.06	0.89	0.05	-0.14	-0.12	0.74	
Q23 楽しい	-0.04	0.66	0.29	0.19	-0.23	0.68	
Q12 PHNに発信できる	0.07	0.62	-0.07	0.13	0.00	0.48	
Q15 活動に対して前向き	0.22	0.61	0.20	-0.17	-0.15	0.64	
Q03 やりたいことがある	0.00	0.57	0.09	-0.07	0.09	0.44	
Q01 地域の現状を知っている	-0.22	0.56	-0.02	0.15	0.23	0.45	
Q31 自分たちの活動をPRできる	0.20	0.55	-0.15	0.06	0.03	0.39	
Q07 自分の言葉で住民に活動内容を伝える	0.00	0.53	-0.08	-0.01	0.27	0.43	
3. 意見表明(3項目)	0.77						
Q17 活発な意見交換ができる	-0.01	-0.01	0.78	0.17	-0.02	0.64	
Q14 要望が出てくる	0.04	0.12	0.52	-0.04	0.23	0.55	
Q13 自分の地域で出た問題を会議で伝えられる	-0.15	0.14	0.46	0.01	0.39	0.51	
4. 船整管理(3項目)	0.61						
Q24 自分たちで連絡調整できる	0.04	0.05	0.18	0.69	-0.04	0.58	
Q29 予算管理が自分たちでできる	0.09	0.06	-0.17	0.55	0.18	0.48	
Q16 出欠の有無の連絡がとれる	0.06	-0.14	0.28	0.41	-0.02	0.22	
5. 自己評価(2項目)	0.75						
Q09 自分たちの問題を言える	0.09	-0.12	0.07	0.07	0.75	0.63	
Q06 自ら課題を出すことができる	0.28	0.07	0.24	-0.11	0.47	0.69	
累積%		40.19	45.61	49.29	52.71	55.24	
		因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	
因子相関	因子1	1					
	因子2	0.71	1				
	因子3	0.50	0.61	1			
	因子4	0.41	0.38	0.09	1		
	因子5	0.57	0.51	0.35	0.33	1	

表3 自主性評価尺度の得点

	TP 得点(平均)	プランニング	積極的活動	意見表明	調整管理	自己評価
N	162	162	162	162	162	162
平均値	3.59	3.21	3.75	3.60	4.15	3.23
標準偏差	0.54	0.70	0.59	0.72	0.64	0.77

表4 下位尺度得点の順序

調整管理	>	積極的活動	>	意見表明	>	自己評価	>	プランニング
t検定 * : p < .05 ** : p < .01 *** : p < .001								

表5 組織属性と自主性評価尺度得点

	TP 得点(平均)	プランニング	積極的活動	意見表明	調整管理	自己評価
組織形態 ※1	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.
活動年数 ※2	***	*	***	*	***	n.s.
分班長会議の定期開催 ※1	**	*	***	*	**	*
班員会議の開催状況 ※2	n.s.	n.s.	*	*	n.s.	*

※1:t検定 ※2:一元配置分散分析 \* : p < .05 \*\* : p < .01 \*\*\* : p < .001

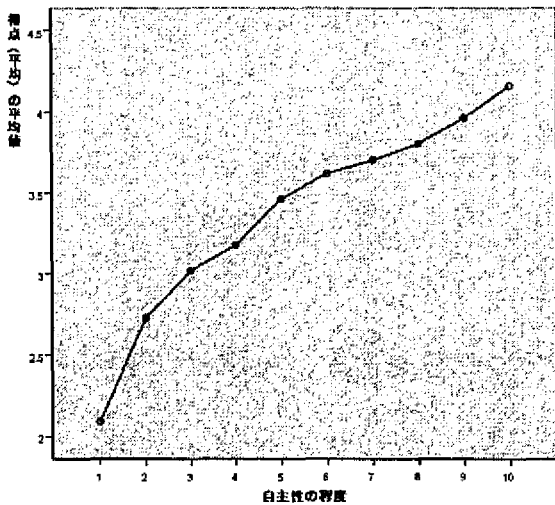


図1 評価尺度得点の分布

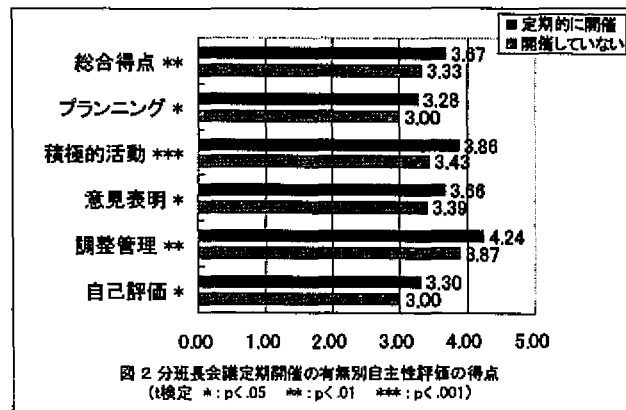


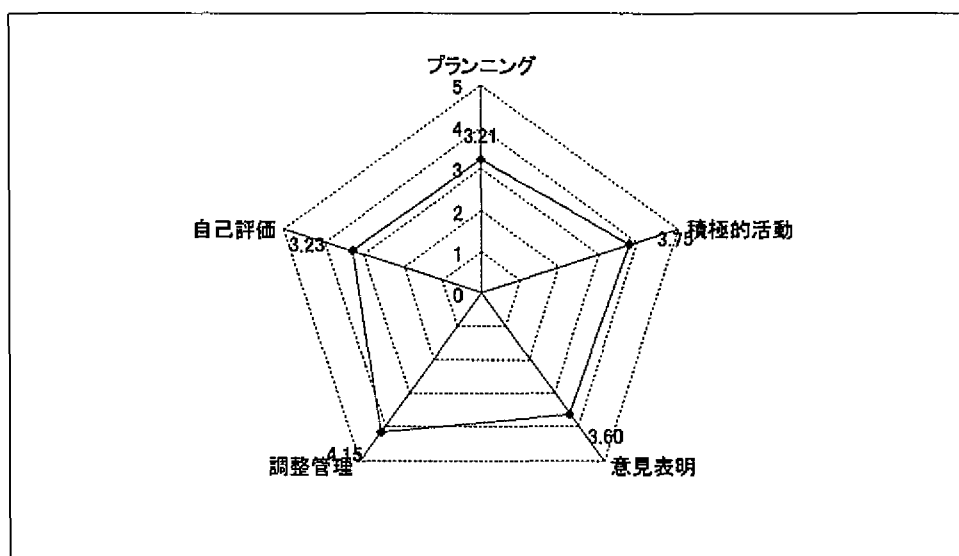
図2 分班長会議定期開催の有無別自主性評価の得点 (t検定 \* : p < .05 \*\* : p < .01 \*\*\* : p < .001)

別表 自主性評価尺度チェックリスト（ベータ版）A面

	評価内容	評価(5段階)	プランニング	積極的活動	意思表明	調整管理	自己評価
1	地域の現状を知っている						
2	事前に会から案が出てくる						
3	自分の地域で出た問題を会議で伝えられる						
4	自分たちで方向性や計画を決められる						
5	要望が出てくる						
6	やりたいことがある						
7	活動に具体的な提案ができる						
8	活発な意見交換ができる						
9	自分の言葉で住民に活動内容を伝える						
10	計画を立て、課題がわかり、評価して、プランが立てられる						
11	出欠の有無の連絡がとれる						
12	やる気がある						
13	自分たちの活動を自分たちで評価できる						
14	自分たちで連絡調整できる						
15	PHNに発信できる						
16	次の動きがみえる						
17	活動に対して前向き						
18	予算管理が自分たちでできる						
19	楽しい						
20	自ら課題を出すことができる						
21	自分たちの活動をPRできる						
22	自分たちの問題を言える						
	平均点						

※ 回答は、5件法で「5よく当てはまる」、「4まあ当てはまる」、「3どちらとも言えない」、「2あまり当てはまらない」、「1全く当てはまらない」です。得点は5～1までになります。

全体得点(平均)	1 プランニング	2 積極的活動	3 意見表明	4 調整管理	5 自己評価
3.59	3.21	3.75	3.60	4.15	3.23



下位尺度得点レーダーチャート

別表 自主性評価尺度チェックリスト(ベータ版) B面

Q1 支援する愛育班の組織の区分	1 単位組織	2 連合会
Q2 愛育班が活動をはじめてからの年数(結成してからの年数)	1 5年未満 2 5年以上10年未満 3 10年以上15年未満 4 15年以上20年未満 5 20年以上	
Q3 分班長会議について		
Q3.1 開催状況について	1 毎月 2 2ヶ月に1回 3 3~4ヶ月に1回 4 不定期 5 開催なし →4 班員会議へ	
Q3.2 議題(テーマ)を提示して会議をしていますか	1 はい	2 いいえ
Q3.3 司会、記録など役割分担をして進行していますか	1 はい	2 いいえ
Q3.4 参加者全員が必ず発言するようにしていますか	1 はい	2 いいえ
Q3.5 会議の出席率ほどの程度ですか	1 ほぼ全員出席している      2 半分以上出席している      3 欠席者が多い	
Q3.6 開始時間、終了時間が守られていますか	1 はい	2 いいえ
Q4 班員会議	1 開催している      2 一部で開催      3 ほとんど開催なし	
Q5 声かけ活動をしていますか	1 ほぼ全体で声かけ活動を行っている 2 一部の対象、地域で声かけ活動を行っている 3 ほとんど行っていない	
Q6 総会について		
Q6.1 総会を開催していますか	1 はい	2 いいえ →終了
	↓	
Q6.2 事業報告作成時に事業の評価をしていますか	1 はい	2 いいえ
Q6.3 事業計画は前年度事業の評価をもとに計画していますか	1 はい	2 いいえ
Q6.4 決算書を自分たち(愛育班役員)で作成していますか	1 はい	2 いいえ
Q6.5 予算案を自分たち(愛育班役員)で作成していますか	1 はい	2 いいえ
Q6.6 規約の確認を行っていますか	1 はい	2 いいえ